

検証結果【交付金関係】

No.	事業名	事業目的及び概要	事業実施状況	担当課における評価		検証委員からの評価	
				所見	評価	所見	評価
1	RESASの活用による人材育成とUターン就職促進事業	RESASを活用しUターン就職の受け皿となる企業群の誘致に向けた方策や都市部在住の若年層への情報発信の方策、実践的な就労支援プログラムなどを実施し、大学への進学等に伴って都市部へ転出した若者のUターン就職を促進することを目的とする。	Uターン就職者と地元中・高生との交流事業として、実際に地元企業の職場見学やその後の意見交換会などを実施した。	Uターン就職の受け皿となる企業誘致には至らなかったが、職場見学や意見交換会を開催することで中高生にUIターンという選択肢を認識してもらうことができた。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・事業そのものには努力が感じられるが、事業内容とKPI(誘致企業数)の整合がとれていないのではないかと。 ・RESASの活用については地元高校生のフィールドワークを地元事業者が応援する形にしてみてもどうか。 ・Uターン就職を促す取り組みとして住居、仕事、参画できる活動を用意して体験してもらうのはどうか。 ・RESASのデータを活用し、画一的ではないメリハリのある戦略的な人材育成やUターン就職支援につなげて欲しい。 ・事業前後で中高生の意識がどのように変化したかの分析・検証が重要ではなかったか。 ・Uターン就職の受け皿として多種多様な企業誘致につながるような工夫が必要と思われる。 	3
2	美馬市版DMC設立による「儲かる」観光地づくり事業	地域の多様な関係者が連携・協力して「儲かる」観光地づくりを進めるため、一般社団法人「美馬観光ビューロー」を立ち上げた。集中的にプロモーション活動を行うとともに、観光コンテンツの開発にも取り組む。古民家活用モデル実践事業を展開する。	美馬観光ビューローの運営を補助し、観光プロモーション活動を行った。うだつの町並み周辺空き家を活用した飲食店開業に向けての指導支援を行い、2軒が開業した。	販売額、市内観光消費額については新型コロナ感染症の影響により、落ち込んでいることが考えられる。古民家活用件数は2件が6月末までに開業した。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・分散型宿泊施設は京都等でも注目されており、新しい観光消費を生み出すことにもつながる。 ・新型コロナウイルスの感染拡大に対応するため、SNS等による地道なPR、リスク管理の徹底が求められる。 ・有名な観光地を有する近隣の自治体にどのように対抗するのか、あるいは協力していくのか、広域的な視点も必要と思われる。 ・DMC設立に伴い、従来の組織で実施していた事業に対し、どのような成果が得られたのか検証することも重要と考える。 ・ウイズコロナ時代、近隣からの家族連れや一人旅をターゲットに加えるなど幅広い戦略が必要と思われる。 	3

評価における選択肢

- 1 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を上回ったなど)
- 2 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることにはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成したなど)
- 3 本事業は地方創生に効果があった(目標値を上回ることにはなかったものの事業開始前よりも改善したなど)
- 4 本事業は地方創生に対して効果がなかった(実績値が本事業開始前の数値よりも悪化しているなど)
- 5 事業効果を確認できない

No.	事業名	事業目的及び概要	事業実施状況	担当課における評価		検証委員からの評価	
				所見	評価	所見	評価
3	四国のゲートウェイを起点とした「おどる宝島★とくしま観光・文化プログラム」発信戦略[広域連携]	一般社団法人そらの郷と連携して、歴史・文化を活かした体験型教育旅行や農家民泊等の拡大、観光情報発信を行う。 徳島剣山世界農業遺産協議会を通じて、農産物の販売促進やインバウンド観光誘致、傾斜地農耕システムの保全を目指す。	一般社団法人そらの郷を通じて一般家庭で民泊するとともに農業体験を行う教育旅行の受入れを行った。 世界農業遺産では徳島剣山世界農業遺産協議会を中心に、ブランドの普及啓発や販売網の拡大推進の取組を進めた。	県と連携したプロモーションが功を奏し、特にクルーズ来県者数が大きく増加した。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「そらの郷」は積極的に活動できており、教育旅行も受入れが増加している。 ・美馬市の実情を反映したKPIの設定が必要。 ・世界農業遺産は認知度が低く、価値を生かきれていないことから、農業遺産の意義、産品、生産者をすべて網羅したストーリー展開をしてみるかどうか。 ・事業における参加自治体ごとの観光客数や経済効果等の情報も入手すべきではないか。 ・通過型観光地からの脱却ができていくかどうかを検証する手法を検討することも必要と考える。 ・ウイズコロナを念頭に他地域に先んじた戦略が必要と思われる。 	3
4	美馬市×大塚製薬×徳島ヴォルティス連携健康づくりプロジェクト	姿勢の悪さや慢性的な痛みを感じる20歳以上の市民を対象として、運動プログラム、栄養補給及びICT活用による活動量の「見える化」を行うことにより、運動機能の改善を通じた運動習慣の定着化を図り、将来的な医療費及び介護給付費の抑制を図る。	初年度構築事業及び運営業務の2本立ての予算化を行い、事業実施を行った。 申込者数285人（第1クール90人、第2クール96人、第3クール99人） 参加者数267人（第1クール85人、第2クール91人、第3クール91人）	KPIについては、想像以上に達成された。また、参加者についても、ロコミ等で情報共有がされており、参加者からも好評価を頂いている。 また、SIBという珍しい仕組みでの取り組みということから様々なところから問い合わせがある。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・健康講座や女性向けの「内面の美」をテーマとした講座の遠隔配信を考えてみてはどうか。 ・課題の抽出から、KPIの設定、評価までの過程が非常に適切になされており、県内外にこの事業をPRしていくべき。 ・SIBという新しい取り組みに可能性を感じる。 ・受講後の継続が課題と思われることから、実効性のある長期的なフォローアップの仕組み作りが望まれる。 	1

評価における選択肢

- 1 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を上回ったなど)
- 2 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることにはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成したなど)
- 3 本事業は地方創生に効果があった(目標値を上回ることにはなかったものの事業開始前よりも改善したなど)
- 4 本事業は地方創生に対して効果がなかった(実績値が本事業開始前の数値よりも悪化しているなど)
- 5 事業効果を確認できない

No.	事業名	事業目的及び概要	事業実施状況	担当課における評価		検証委員からの評価	
				所見	評価	所見	評価
5	「美馬の子どもたちに『本物の音楽』を」プロジェクト	優れた教育環境は、子育て世代にとって「住む場所」を決める大きな要素となることから、都市部へ転出しなくても幼少期から「本物の音楽」に触れることのできる環境をつくることにより、子育て世代の「転出抑制・転入促進」につなげる。	企業版ふるさと納税を活用し、市内の保育所・幼稚園・認定こども園の4・5歳児から小学3年生の児童にむけて地域交流センター市民ホールにおいて、12月18日、19日の2日間全3公演を行った。	市外の子育て家庭に本事業の実施状況をPRすること、また多様な子育てニーズの中で本事業の効果を測ることは現状では難しい状況があるが、対象とする子育て世帯には好評であり、地方創生施策としては有意な事業である。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的格差が、文化とふれあう格差にならないためにも大切な取り組みだと考えるが、KPI(15歳以下の転入者数)については再考すべきと考える。 ・地元企業のPRの場ともなり、地域住民、地域産業、市役所の協働の場となる可能性もある。 ・美馬市民の子どもであればほぼ100%「本物の音楽」に触れることをアピールしてみてもどうか。 ・転入手続の際に保護者に転入動機をアンケートして美馬市の強み・弱みを把握してはどうか。 	5

評価における選択肢

- 1 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を上回ったなど)
- 2 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることにはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成したなど)
- 3 本事業は地方創生に効果があった(目標値を上回ることにはなかったものの事業開始前よりも改善したなど)
- 4 本事業は地方創生に対して効果がなかった(実績値が本事業開始前の数値よりも悪化しているなど)
- 5 事業効果を確認できない